

「備中とと道トレイル」の日本ユネスコ協会連盟 「未来遺産プロジェクト2023」への登録証伝達式開催報告

開催日 2024年7月6日(土) 13:30~16:20

エリア 岡山県高梁市成羽 たいこまるプラザ 伊藤記念ホール

主催者 公益相団法人 日本ユネスコ協会連盟 &

備中とと道トレイル推進協議会

かつて、明治から昭和初期にかけて、瀬戸内海で捕れた鯛やブリの鮮魚を岡山西部の笠岡の港町・金浦から新鮮なまま、夜の9時から12時間かけて、ほぼ60Km北の吉備高原の中の鉦山「吹屋」へと届けるシステムがありました。しかし、昭和になるとこの輸送は車に代わり、道は60年ほど前から使われなくなり、深い森の中に姿を消しました。

2016年、あるきっかけからその古道の探索を始めた人々が現れました。それまでは見ず知らずだったのですが、中にはもう10年以上も前から独自に探索をしていた郷土史家もいて、各地から12名のメンバーが揃いました。

その後3年、古い文献、古地図、道標などを参考に一本の細い道が同定され、改めて「備中とと道トレイル」と名付けられました。以来、安全に歩くための草刈り、道の整備、百近い新道標の設置、ガイドブックの発行、ウォーク大会の開催を続け、500人以上の方が再開発されたこの古道を歩かれました。

そして昨年、大会に参加された倉敷ユネスコ協会の推薦を受けて未来遺産プロジェクトに応募、今年3月8日に登録認定を受けることができました。登録のローガンは「歩こう子どもたち！～未来につながる「備中とと道～」です。

式は第1部が伝達式、駆けつけたとと道沿道の行政関係の代表の高梁市長から、「とと道を活用した地域振興を沿道市町が共同して応援したい」とのお話がありました。

第2部はとと道にまつわる講演ということで民俗学者の神崎宣武氏と北海道大学の西山徳明教授(昨年末とと道現地を視察)のお二人が講演されました。西山教授は「とと道は、深い山中で鮮魚を食べるといふ、当時としては明らかなimpossible missionを政治でも、宗教でもない、市民の商売の力がpossibleにしたシステム。。これを現代の景観として蘇らせた国内で唯一の流通・往来を示す文化的景観である」と評価されました。

会場には200人を越える皆様が参集され、3時間に渡る式典、講演に熱心に耳を傾けておられました。「100年後の子どもたちへ！伝える」ことが可能と思えるほどの盛況でした。瀬戸内海のしまなみ街道に加えて吉備高原のやまなみ街道へ是非お出かけください。



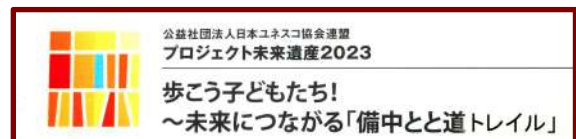
北海道大学教授西山徳明氏より小見山会長へ登録証の伝達



参加合計202名とか



日本ユネスコ協会未来遺産2023
登録証(新聞紙大)



同上
戸外展示用プレートユネスコ